

(氏名) 石渡華奈	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 授業外での英語学習機会の提供</p> <p>「授業以外でも英語を学びたい・使いたい」という学生の希望により、2010年度後期から研究室で週に一回 Kana's Cafe を開いている。参加も出席も義務ではなく、自発的な学習の場として機能している。ただ英語を喋るという場ではなく、英語学習相談を行ったり英語に関する質問に答えたり、また英語の化石化が起こらないように教材を決めてトレーニングを行ったりしている。</p> <p>2年次以降から参加という学生も少なくないが、今年度は1年次から4年間 Kana's Café のメンバーであり続けてくれた5名が卒業を迎えた。その5名のうち3名はいずれも TOEIC 850~870 点を取得し、1名は英語を社内公用語とする企業に就職、2名は入社数年後に英語圏の海外支店に配属されることが決まっている。この他の2名も英語を使う部署への配属を希望している。英語のゼミがない本学で、4年間継続して英語学習の場を提供できたことは大きな意味があると考えます。</p> <p>また、大学構内で会ったとき、また授業でも研究室でも教員が英語を使っているときには日本語を使ってはいけないというルールにしている。メール連絡も原則としてすべて英語で行っている。年度の始まり、各学期の始まりにはほとんど英語で受け答えができなかった学生でも多くが、年度の終わりには自ら英語でコミュニケーションを取ろうという姿勢に変わっていることに、その効果が反映されている。</p> <p>(2) 英語スピーチのコーチング</p> <p>今年度も引き続き英語研究部 (ESS) スピーチセクションの希望者にコーチングを行った。結果、1名が2つの全国大会に出場、2名が1つの全国大会に出場した。いずれも入賞を果たすことはできなかったが、全国に何千人という ESS 部員のなかで、予選を通過して全国大会の本選に出場できる者はごくわずか (各大会 8~10 名) であり、2年連続して複数名の本選出場者が生まれたことは非常に喜ばしい成果である。</p> <p>(3) 英語カリキュラム改革</p> <p>2013年度からの課題であった新カリキュラム策定に向けて、他の英語部会メンバーとともに積極的に改革案を練った。</p> <p>昨年度末に作成した新カリキュラムの答申をもとに、科目、副専攻制度、奨励費などさらに具体的なカリキュラム内容を煮詰めていった。特に懸案事項のひとつであった1年次および2年次のプレイスメントテストを決定するために、英語部会で2種類のテストのパイロット (両学部学生約 100 名対象) を行い、それぞれのテストの利点や問題点について検討を行った。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>Kana's Café に集う学生たちからは、毎年必ず「なぜこの大学には石渡のゼミ (あるいは英語のゼミ) がないのか」と質問を受ける。英語のゼミ開講の可能性はまったく見</p>	

えないが、それを望む彼らのために、代わりの存在としての **Kana's Café** は必ず継続していく予定である。また、**ESS** スピーチセクションのメンバーたちが全国区で競い続けられるよう、コーチングのスキルをさらに向上させたい。いろいろな制約のある授業ではできないことも積極的に挑戦し、さらに充実した英語学習環境を学生たちに提供していきたい。

英語部会では引き続き英語カリキュラム改革に向けて新カリキュラムの策定を推進していく。